

関係各位

京都府病虫害防除所長
(公 印 省 略)

病虫害発生予察情報について

下記のとおり発表しましたので、送付します。

発生予察特殊報第1号

病虫害名 ハコベハナバエ *Delia echinata* (Séguy)
作物名 ホウレンソウ
発生地域 京都市内の一部地域

1 発生確認の経過

平成28年12月、京都市内2地点の露地栽培ホウレンソウで、葉の葉肉内に食入し、食害するハエ類幼虫を確認した。被害葉ごと本幼虫を採集し、蛹化した蛹及び羽化した成虫を農林水産省神戸植物防疫所に同定を依頼したところ、ハコベハナバエと確認された。

なお、発生を確認した2地点ともに、本種による被害程度は軽微であった。

本種のホウレンソウへの寄生については、これまでに神奈川県、東京都、奈良県、埼玉県、群馬県、山口県及び千葉県等の7都県で確認され、特殊報が発表されているが、府内でホウレンソウでの発生は今回が初めてである。

2 被害の特徴

成虫は茎の先端部付近や側芽の新葉に点々と産卵する。幼虫はホウレンソウの葉身葉肉部及び葉柄部内を食害し(写真1、2)、さらに生長点付近に潜入するため、ホウレンソウの生育不良や枯死を引き起こす場合もある。

3 生態

本種はハナバエ科の一種で、九州以北の日本各地及び朝鮮半島、ヨーロッパ、北アメリカに分布する。寄主植物は、カーネーション、ナデシコ、セキチク、ハコベ、オランダミミナグサ等のナデシコ科植物、ホウレンソウ等とされている。

成虫は体長6～7 mm、胸・腹部は灰黄色粉で被われた黒色のハエ(写真3、4)で、雄成虫は左右の複眼間にほぼ隙間がなく、雌成虫は離れており、額帯交叉剛毛を有する(写真5、6)。

老熟幼虫は体長 6 mm 内外で、淡黄緑色。蛹は体長 5 mm で赤褐色の俵状（写真 7）である。

老熟幼虫は加害部から脱出して土中で蛹化し、約 2 週間で成虫が羽化する。一年に 3 世代以上繰り返すものと考えられている。

4 防除対策

現在、ハウレンソウで本種に使用できる農薬はないので、以下の耕種的・物理的防除に努める。

- (1) 窒素や有機物の多施用は成虫を誘引するので、適切な肥培管理を行う。
- (2) ほ場周辺のハコベ、オランダミミナグサ等の寄主植物となる雑草を除去する。
- (3) 防虫ネット等を被覆し、産卵を防止する。
- (4) 被害葉はほ場外に持ち出し、適切に処分する。

<参考文献>

笹川満廣・上住泰（2003）日本農業害虫大事典（梅谷献二・岡田利承編），全国農村教育協会，PP. 772 - 773



写真 1 被害葉の様子
(赤円内の箇所：被害部)



写真 2 幼虫による潜孔痕



写真 3 雄成虫（体長 6 ~ 7 mm）



写真 4 雌成虫（体長 6 ~ 7 mm）



写真5 雄成虫（頭部）



写真6 雌成虫（頭部）



写真7 蛹（体長 5 mm）

（被害写真提供：京都府京都乙訓農業改良普及センター）